

カンパチ親魚候補の選抜育種試験

増養殖環境課 渡辺 貢・黒原 健朗

1 目的

株式会社山崎技研と共同で、カンパチ人工種苗の養殖用種苗としての実用化を加速させるため育種に取り組み、人工種苗の経済的特質の向上を図る。

養殖用種苗に要求される優良形質を持つ人工種苗を作出するため、体形が整った成長優良魚の選抜を目指す。

2 方法

古満目湾の海面小割網生簀（8×8×8 m）で平成 25 年 5 月から継続飼育している 1,218 尾について、平成 26 年 6 月 16 日に成長優良性を選抜基準にし、1 尾ずつ目視で選別を行った。その後約 1 か月ごとに無作為に 20 尾取り上げて魚体測定を実施した。餌料は市販のぶり類育成用配合飼料を週 3～5 日の頻度で飽食給餌した。また、約 2 週間ごとに網替えを行い、同時に淡水浴又は駆虫剤による消毒を実施した。

3 結果と考察

選別されたカンパチ人工種苗の総数は 318 尾で、平成 27 年 3 月 31 日の生残尾数は 300 尾であった。飼育期間中、継続して淡水浴等を実施したにもかかわらず、ハダムシやエラムシの寄生が周年散見された。8 月以降の水温と平均体重の推移を図 1 に示した。表層における水温及び溶存酸素量は、それぞれ 15.0～29.7℃（平均 21.6℃）及び 4.8～10.7mg/L（平均 6.8mg/L）で推移した。昨年と同様に溶存酸素量に問題はなかったが、水温が 17℃を下回るようになった 1 月下旬から成長の遅滞が見られた。

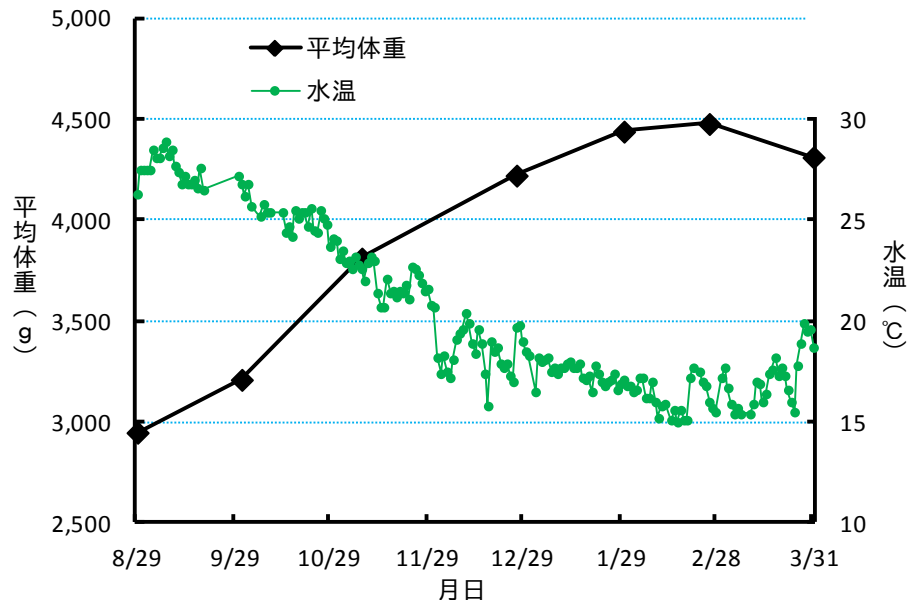


図 1 水温と平均体重の推移